

実施のポイント

◎ “まちあるき”のモデルプログラム

《学校概要》・新興住宅地にある中規模校 ・核家族が多い

- ・真面目で素直な子どもが多い反面、全般的に受け身の姿勢であり、自分の思いを表現することが苦手な傾向がある。
- ・今年度学校として育成を目指す資質・能力を「**かかわり合う力**」としている。

↳ 互いのよさを生かしながら課題解決しようとする力

《活動概要》・総合的な学習の時間（2時間扱い）

- ・毎年決まったコースを歩き、恒例となっている。
- ・安全面の確保のため、保護者に協力を得ている。

<実施当日>

ワーク1：協議【70分】 「“まちあるき”ってこれでいいの？」

ファシリテーターの協議の進め方

《ファシリテーター》

《学習者》



“まちあるき”の成果と課題をグループで話し合ってみましょう。

時間どおりに活動ができて良かったわ。



行き先を案内してしまう保護者がいたなあ。



そもそも“まちあるき”のねらいは何でしょう？

住んでいる町のことをよく知るため？



重要! そうですね!もちろん単元のねらいの達成のためにやっています。でも実は、この活動をとおして本校として育成を目指す資質・能力である「**かかわり合う力**」を子どもたちに身に付けるという、もう一つのねらいもあるのです。



“まちあるき”を通して、子どもたちに「**かかわり合う力**」を身に付けさせるためには、何ができそうでしょうか?アイデアを付せんに書いてみましょう。

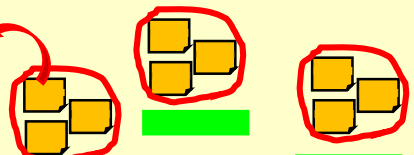
(模造紙の使い方の例)

そうだったのね!



「かかわり合う力」を育むためのアイデア

回覧板で周知し、商店や近隣の方々にも見守ってもらうよう依頼



「多くの人たちを巻き込む」



付せんを模造紙に貼った後に、似ている意見をまとめて、見出しをつけましょう。



どのような見出しがついたかを、グループごとに発表しましょう。



重要! 皆さんがつけた見出しこそが、学校と地域の連携・協働活動を見直すための“視点”なのです。

そもそも「地域学校協働活動」って何???

地域の高齢者、成人、学生、保護者、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して地域と学校が相互にパートナーとなって行う様々な活動のことです。

このうち学校と地域の連携・協働する活動には、授業補助、ふるさと学習、課題解決学習、キャリア教育支援、読み聞かせ、登下校の見守り、学校行事等があります。